

篠の上半分の削平に伴い散乱したものであろう。石棺2内部はすでに盗掘をうけており、元位置を保った遺物は出土していないが、これらの散らばった鉄器は、元来石棺2内部あるいはその墓壙内に納められていたものが、盗掘時あるいは削平時に散乱した可能性も捨てきれない。

一国山1号墳の被葬者について 足守地域において古墳が特に集中するのは、字大崎付近から三井谷北側の南北約4kmの範囲である。この範囲では、25m以上の比較的規模大きな盟主的古墳が、古墳時代前期の前方後方墳→古墳時代中期前半の方墳→古墳時代中期後半の円墳と形態を変えながら、複数の単位に分かれて築かれ、そして古墳時代中期末に至ると、盟主的古墳を築いた集団とそうでない集団との差は解消され、盟主的古墳は築かれなくなる（註6）。

一国山1号墳の位置する三井谷周辺部の、北あるいは北西に飛び出す尾根上においては、南坂8号墳→南坂2号墳→南坂9号墳と規模的に盟主的な古墳と推測される古墳が築かれている（註7）。これらの古墳は立地から三井谷入り口付近の扇状地を基盤とする集団のものと推測され、言い換えればこの三井谷付近は一つの盟主的古墳の単位を為していたともいえる。

一国山1号墳は後述するように、同じ一国山の南西斜面上に位置する、一国山2号墳あるいは3～5号墳とも連続性はみられず、5世紀後半すなわち古墳時代中期後半に、独立して築かれている。このことは一国山1号墳の被葬者が、古墳時代中期後半になって初めて、南坂9号墳の影響下で古墳を築き得るいわば新興勢力で、一方その後は再び築くことはできない、すなわち長期間継続して古墳を築造するには勢力が脆弱であるという、二つの特徴を持った集団の構成員であったことを示している

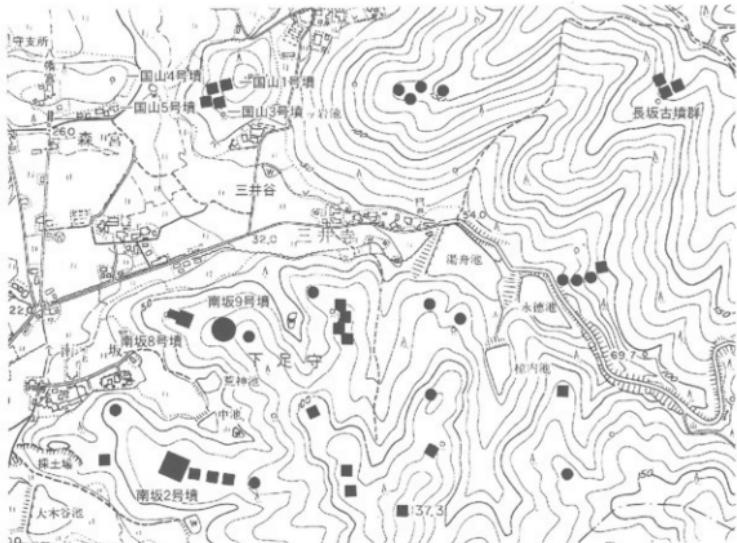


図103 三井谷周辺の前・中期古墳

『岡山市埋蔵文化財分布地図』岡山市教育委員会 1983 を加筆修正

と推測される。

一方で、一国山1号墳石棺2の墓壙には胡竈が副葬されており、また明確ではないが鉄鋸も副葬されていた可能性があり、この被葬者は、朝鮮半島の影響を受けた遺物を所持していたといえる（註8）（註9）。

これらのことから、一国山1号墳の被葬者は決して有力な集団の構成員ではなかったが、朝鮮半島と何らかの接点を持つ人物であったと考えられる。

第2項 一国山2号墳について

外護列石と横口式石室とみられる主体部をもつ2号墳は、箱式石棺を主体とする一国山古墳群の中で、異彩を放つ墳墓である。小片ではあったが出土した須恵器から8世紀初頭に築造されたものと推測され、吉備地域の終末期古墳の中でも新しい時期に属するものであろう。県下において、終末期古墳はいくつか調査が行われているが（註10）、ここでは調査されていないものも含めた終末期古墳全体のなかで、墳丘の規模等から一国山2号墳がどのように位置づけられるのか検討してみたい。

一国山号墳の墳丘規模 これまで確認されている県下の終末期古墳は、亀山行雄氏の集成（註11）によると、7世紀を中心とするものがほとんどであり、8世紀初頭の築造とみられる古墳は惣田奥4号墳・新屋敷古墳・一国山2号墳の3例にとどまる。古墳時代終末期では、墳丘規模は方墳のほうが大きく、その多くが一辺10m以上ある。またそれら規模の大きな方墳は一般的に外護列石が伴う例が多い。当該期の方墳には規模の大きい墳丘が多いという特徴があるにもかかわらず、一国山2号墳は外護列石を有しているものの南辺で約5.5m、高さ2mを測り、他の方墳と比べ格段に小規模な古墳である。これまで県下で発掘調査の有無を含めて確認されている終末期古墳のなかでは最も小さい部類に含まれる。

古墳名	所在地	墳形	墳丘規模(m)
惣田奥4号墳	備前市佐山	一	6×1.5
摺鉢池1号墳	岡山市津高	方	8×1.5
摺鉢池2号墳	岡山市津高	方	7.5×
摺鉢池3号墳	岡山市津高	円	11×2
富原西奥古墳	岡山市富原	方	7.6×2.2
一國山2号墳	岡山市下足守	方	5×2
二子14号墳	倉敷市二子	方	13.5×2
笠池裏1号墳	倉敷市西坂	方	12×3.4
向山16号墳	倉敷市矢部	一	—
半俵4号墳	倉敷市矢部	一	—
新屋敷古墳	早島町矢尾	円	9×0.2
長砂2号墳	総社市久代	方	9×2
砂古22号墳	総社市八代	方	17×6
立坂北3号墳	総社市立坂	円	6×2
沖田奥4号墳	総社市沖田奥	円	8×
沖田奥5号墳	総社市沖田奥	方	9×2
小追大塚古墳	矢掛町南山田	方	27×6
荒神西古墳	津市桑下	円	11×1.6
大沢2号墳	津市久米川南	円	6×0.5
大沢1号墳	津市久米川南	円	5×0.4
釜田2号墳	津市桑下	円	6×
釜田1号墳	津市桑下	円	6×
穂山6号墳	津市久米川町	円	7×0.2
穂山5号墳	津市久米川町	円	6×0.2
穂山4号墳	津市久米川町	円	7×0.7
荒神古墳	津市桑下	円	5×
定北古墳	真庭市上中津井	方	21×6
定東塚古墳	真庭市上中津井	方	—
定西塚古墳	真庭市上中津井	方	—
大谷1号墳	真庭市上中津井	方	12.9×7.3

表2 岡山県下の終末期古墳

（亀山1993をもとに作成
(墳丘規模は長さ(径)×高さを表す)

築造規格について 一国山2号墳は、外護列石が良好に遺存しており、墳端を明瞭にとらえることができた。ここでは定北古墳や二子14号墳など、県下の終末期古墳の使用尺度について検討した尾上元規氏の方法(註12)を参考に、墳丘築造の使用尺度について検討してみたい。図104は一国山2号墳の平面図に唐大尺10尺(297cm)の方眼を重ねたものである。南北辺では20尺に足りないものの、おおむね20尺四方の枠に収まることがみてとれる。主体部である石櫛は大きく失われているため、石櫛の規模等に関する規格の検討は試みていない。ここでは、墳丘築造に関して唐大尺を意識していた可能性を指摘しておきたい。

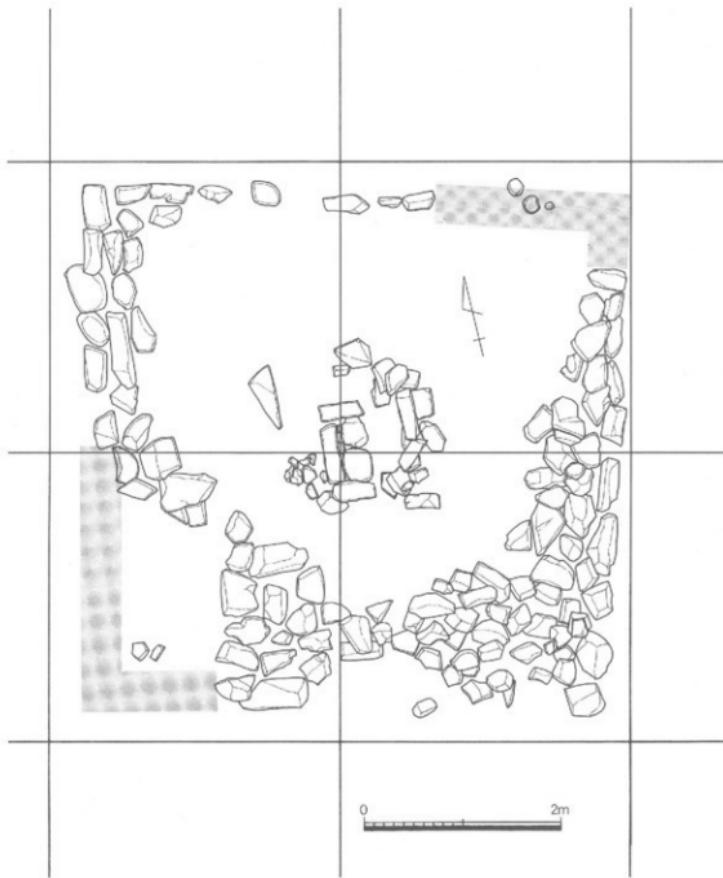


図104 一国山2号墳の築造規格 ($S = 1/50$) [方眼は1マス唐大尺の10尺=297cm]

主体部について 一国山2号墳の主体部は横口式石槨であったとみられる。その規模は、残存部分から推定して、最大でも長さ1.5m、幅1m程度である。また、石槨の掘り方は確認できず、石槨の構築と墳丘の構築は同時並行で行われたものと考えられる。

石槨の底面には板石が数枚残存しており、石槨床面は本来石敷であったと考えられる。ただし、現状で確認できた石槨床面は、板石の出土状況から見て斜面に沿って南へ傾斜しており、床面を水平につくる意図がみられない。

石槨の床面から、鉄釘が出土している。出土した鉄釘が原位置を反映しているとみると、石槨内に納められた木棺あるいは木櫃は、長さ約90cm、幅約40cmを大きく超えることはないだろう。また、石槨内には赤褐色を呈する焼土とみられる埋土が確認できた。石槨の規模および、鉄釘の出土状況からみた木棺または木櫃の大きさから考えて、本墳は卑葬墓と推測される。

一国山2号墳の位置づけと被葬者像 亀山氏による終末期古墳の類型案（註13）にあてはめると、長砂2号墳・富原西奥古墳の属するII類あるいはIII類の範疇に収まると考えられる。ただし、外護列石を有する点は異なるものの、古墳の立地は山の斜面を利用して単独で築かれている点、横口式石槨の可能性のある点、わずかな副葬品など、共通する点が多いのはII類といえる。墳丘の規模等からみれば群集墳のIII類であるが、明確に6・7世紀代に築造された古墳が一国山古墳群の中に確認できない現状では、当地において、継続的に築かれた古墳とみるより、単独で築造された古墳とみるほうがいいだろう。

また、一国山2号墳の特徴として、終末期古墳にみられる段築が確認できない点を挙げることができる。ただし、主体部が大きく破壊されているため、本来は二段目の外護列石が存在した可能性は否定できない。

一国山2号墳は、墳丘規模・副葬品などからみて、地方の古墳築造に対する規制を意識して築造されたことはほぼ間違なく、亀山氏の論考（註14）を参考にすると、おそらく下級の官人層の墓とみられる。一国山古墳群は、古代の行政区画で賀夜郡足守郷に位置しており、本墳が築造された時期は賀夜氏の勢力下にある地域である。本墳築造の背景に、賀夜氏の存在を意識するのは筆者だけではないだろう。

以上、一国山2号墳についてまとめてみた。当地域では終末期古墳の調査例はめずらしく、貴重な調査例となった。また外護列石が良好に依存していたため、当該期における終末期古墳の墳丘規模を明確にできた点は成果の一つといえる。しかし、外護列石が比較的良好に残る一方で、主体部が大きく失われていたため、主体部の形態や規模等の内容について可能性の域を超えていた点は悔いが残る。

岡山県下の7世紀代には小追大塚古墳（註15）や旧北房町地域に定古墳群～大谷1号墳の首長墳の系列がみられるなど、前方後円墳の築造停止後も巨石を用いた精美的な古墳が築かれている。とりわけ、旧北房町地域に展開する終末期古墳群は、調査によってその内容が明らかにされ、中央豪族と地方有力者の関係が明らかにされつつある（註16）。一方、吉備中枢地域における終末期古墳のあり方、とりわけ8世紀代の古墳については、まだ調査例も多くなく、これから徐々に明らかにされていくのであろう。そのような状況の中で、一国山2号墳は8世紀初頭における当地域の在地有力者の動向を窺える興味深い古墳といえる。

第3項 一国山3・4・5号墳について

立地について 一国山3・4・5号墳は、一国山南西斜面上に近接あるいは密着して築造されており、他の1・2号墳とは異なり3基で独立した古墳群を形成している。これらの古墳が立地する斜面からは、立木等がなければ南西側に現在の森宮集落、及び冠山と、八幡山に挟まれた三井谷入り口付近の扇状地を望むことができる。地形、立地等から、一国山3・4・5号墳は、この扇状地部分を意識して築かれたものと推測される。

墳丘について 一国山3・4・5号墳の墳丘は現状ではほとんど認められない。いずれの古墳も、墓壙は、地山を平らに整地した面から掘り込まれており、また墓壙の深さと棺身の高さは基本的に同じである。従って、まず南西に下る斜面を段状に削りだし墓壙を掘削し、次に墓壙内に石棺の身を構築し、遺体を入れ蓋石をのせ、その後盛土をおこない墳丘を完成させるという築造過程が考えられる。いずれの石棺の蓋石も現表土直下より検出されているということは、墳丘が斜面上に築かれているため盛土が流出していることを考慮しても、盛土の厚さは元々少なく、従って墳丘の高さもさほど高くなかつたと考えられる。各古墳とも、埴輪、葺石等の外表施設は認められない。

主体部について 主体部はすべて組合せ式箱式石棺であった。図105、表3に示すとおり、箱式石棺の主軸はいずれも北東—南西方向を示しており、N44°~58° E（真北を基準するとN50°~64° E）の範疇に収まる。同一の墳丘上における各主体部の主軸方向の差は1°~2°のずれしかなくほぼ平行といえる。のことから3・4・5号墳築造時には、埋葬規定が存在していたと推定される。

石室は大きく、枕石を伴うもの（石棺4・5・6）と伴わないもの（石棺3・7・8）に分類される。

枕石を伴う石棺は、すべて4号墳の上に築かれたものであるが、その中でさらに板石敷きのもの（石棺5）とそうでないもの（石棺4・6）に分けられる。板石敷きである石棺5は、石棺内の規模も石棺4・6よりも大きく、4号墳の中心主体と推測される。従って礫敷きのものはそうでないものに対し優位に立つと考えられる。

枕石を伴わない石棺は、3号墳及び5号墳に築造されたものである。3号墳の石棺3は、3基の中でもっとも副葬品が豊富であることから、3・4・5号墳の内一番優位に立つと推測される。5号墳上に營まれた石棺7・8の内、石棺7は少ないとはいえ副葬品を伴い、石棺の規模も大きく、また石棺8に先行して築かれているところから5号墳の中心主体と推測される。

副葬品について 一国山3・4・5号墳に伴う6基の石棺の内、副葬品を持つものは、3号墳の石棺3及び5号墳の石棺7である。石棺3出土の鏡は、平縁の獸形鏡あるいは獸帶鏡と考えられる破鏡である。断面が研磨されているところからこの状態で保持していたと推測され、石棺3の被葬者が鏡を保持する階層の中で最下層に位置する人物であったことをあらわしていると考えられる（註17）。

石棺3出土の管玉は碧玉製のもので、径7mm長さ35mmのやや大型のものと径5.5mm長さ19.4mmのものがある。穿孔は両側からなされており、材質は良い。

同じく石棺3からは石杵も出土している。石杵は一国山古墳群周辺では、4kmほど南へ位置する津寺遺跡（註18）や加茂A加茂B遺跡（註19）などの足守川流域の遺跡で確認されている。時期は弥生時代後期後半から古墳時代前期までのものがあり、棒状のものとL字形のものがある。石棺3出土の石杵は棒状のもので、形的には津寺遺跡の堅穴住居70（津寺古墳前II）（註20）出土のものが近い。加茂遺跡及び津寺遺跡出土の石杵は集落内から出土しており、集落内で実際に使用したものと思われ

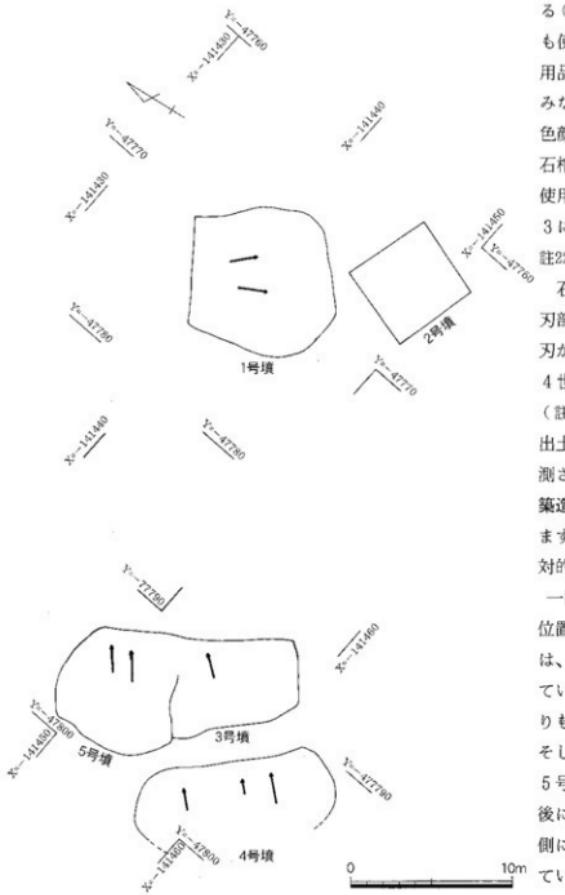


図105 一国山古墳群埋葬施設頭位模式図

る（註21）。石棺3出土の石杵も使用痕が見られることから実用品と推測されるが、石棺3のみならず当古墳群各石棺内に赤色顔料は確認されない。従って石棺3の構築以前に他の場所で使用された後、石杵のみが石棺3に埋納された可能性もある（註22）。

石棺7内より出土した鉈は、刃部と茎部の間がくびれており、刃が鎌形を呈していることから、4世紀代のものと推測される（註23）。石棺3の墓壙内より出土した鉈の断片も、同型と推測される。

築造順位と築造年代について
まず一国山3・4・5号墳の相
対的な築造年代を考えてみる。

一国山3・4・5号墳同土の位置関係は、3号墳及び5号墳は、4号墳よりも高所に築かれているところから4号墳よりも優位にあると考えられる。そして3号墳と5号墳の間では、5号墳は3号墳を拡張する形で後に構築されており、また北西側には急傾斜の北側斜面が迫っているなど、構築順位や立地などから3号墳の方が優位にあると考えられる。従って、①3号

古墳名	石棺名	石棺内法長	石棺内幅	墳丘規模	磁北軸	真北軸	副葬品	註
一国山3号墳	石棺3	1.48m	0.2~0.34m	5.3m×8m	N44° E	N38° E	鏡片 管玉 石杵 鉈	
	石棺4	1.55m	0.25~0.40m		N50° E	N44° E	枕石	
一国山4号墳	石棺5	1.9m	0.3~0.4m	12m以上	N49° E	N43° E		
	石棺6	1.1m	0.34~0.4m		N48° E	N42° E	枕石	
一国山5号墳	石棺7	2.1m	0.45~0.55m		N58° E	N52° E	鉈	
	石棺8	1.68m	0.22~0.30m	7m×8m	N57° E	N51° E		

表3 一国山3・4・5号墳埋葬施設一覧表

墳②5号墳③4号墳という優劣関係が推測できる。3号墳は4・5号墳が複数埋葬をおこなっているのに対し、埋葬施設が1基しか存在しない点や、副葬品の内容も、3号墳の優位性を裏付けると考えられる。すなわち一国山3・4・5号墳は3号墳を中心にして形成された古墳群と考えられる。

のことから3号墳が最初に築かれたことは確実であろう。そして5号墳が3号墳よりも後出する事もまた確実である。4号墳と5号墳の前後関係は不明である。しかし両者の石棺の軸方向が、4号墳はN48°~50° E（真北ならN42°~44° E）、3号墳はN44° E（真北ならN38° E）と比較的平行な値を示しており、一方5号墳のそれはN57°~58° Eと3号墳よりも13°~14° 程ずれていることから、4号墳の石棺は3号墳の石棺の軸方向を意識して築かれていると考えられる。従って4号墳は5号墳に先行して築かれたと推測され、のことから3号墳→4号墳→5号墳の築造順位が想定される。

同一墳丘での石棺の築造順位は、5号墳は墓壙の切り合いから、石棺7→石棺8という順位が想定できるが、4号墳に関しては不明である。

各古墳の築造年代は、手がかりとなる伴出遺物が少なく明確ではない。しかし3号墳石棺3より出土した鏡は、鏡式は特定できなかったものの、鏡片として副葬されている。鏡片の副葬は、北部九州においては、古墳時代初頭以降に登場する要素である（註24）。同じく石棺3出土の管玉は、平井勝氏の論考では前II期の終わり（註25）、高橋進一氏の論考では4世紀に相当と思われる（註26）。ただ管玉の内J34の径7mm長さ35mmのサイズはかなり大型である。平井氏の論考では、前II期に太身長径化し（註27）、高橋氏の論考でも、4世紀に管玉の大型化が始まることが指摘されている。また5号墳石棺7出土の鉈は4世紀代と推測され、3号墳出土のそれも同様と推測される点、一国山古墳群周辺において古墳時代前期より下る石杵の出土例は、現在のところまだ確認されていない点から、3・5号墳の築造時期は4世紀後半の範疇にあると考えられる。上記のような順位でこの3基の古墳が築かれたとするなら、遺物を伴わない4号墳も同様に4世紀の範疇にあると推測される。

石棺の主軸方向について 吉備の前期古墳の埋葬施設の主軸は、南北に方位を取り、かつ墳丘の主軸に平行ないし直交させるかのいずれかであることが明らかになっている（註28）。一国山3・4・5号墳のような前期小古墳群の埋葬施設の主軸にもこのようなことは当てはまるのだろうか。

一国山3・4・5号墳の石棺は、尾根筋を墳丘主軸とするとこれに平行して築かれていることになる。

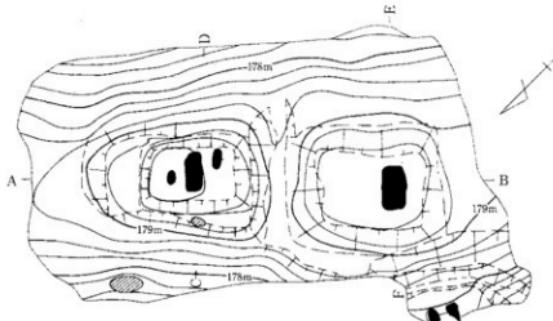


図106 長坂古墳群（註29より一部改変）

一方石室主軸は北東－南西方向を示しており、南北に方位を取っているかどうか微妙である。

当古墳群から約1km東にある長坂1・2・3号墳は、南西に突き出す標高180mほどの尾根上に築かれた古墳時代前期前半の古墳群である（註29）。長坂1・2号墳は尾根筋上に、北西側の斜面に3号墳が築かれている。1号墳の主体部は、尾根筋に直交して箱式石棺・器台転用棺・土器館が、2号墳の主体部は箱式石棺が尾根筋を墳丘主軸とすると、それぞれそれに直交して築かれている。3号墳は墳丘がほとんど破壊されているため不詳であるが、2基の箱式石棺は北西にのびる尾根筋と平行に築かれていると推測される。埋葬施設の主軸は北西－南東を示す。

当古墳群から約9km南西の殿山古墳群（総社市）は、北から南へ、そして途中から南西へ向きを変えて飛び出す標高40～75mの尾根上に位置する、おおむね前II期以前（4世紀後半以前）に比定される古墳群である（註30）。尾根筋に築かれた古墳の内、8～16号墳及び21号墳が調査されている。尾根筋を墳丘主軸とすると、8～12号墳はそれに平行して、13～16号墳及び21号墳は直交して築かれている。埋葬施設の主軸の方位は、平行する8～12号墳は北－南から北東－南西、直交する13～16及び21号墳は東－西から東南－北西とかなり幅がある。

当古墳群から南へ約6km離れたところに位置する郷境墳墓群は、南南西から北北東に下る標高52～55mの尾根上に3基（1・2・5号墓）、そこから分岐して西から東へ下る標高40～50mの尾根上に2基（3・4号墓）の墳丘が築かれている、弥生後期から古墳時代初頭にかけて営まれている古墳群である（註31）。尾根筋を墳丘主軸とすると、1・4・5号墓はそれと平行に、2・3号墓はこれと直交して主体部は築かれている。主体部の主軸はかなり正確に東－西、南－北を指向する3・4号墓と、北東－南西あるいは北西－南東を指向する1・3・5号墓に分かれる。

当古墳群及び、上記の古墳群の内4世紀以前でしかも弥生時代にさかのばらないと推測される古墳（註32）の埋葬施設主軸を、真北を基準にして図示すると図109のようになる（註33）。このデータから、墳丘主軸に平行あるいは直交するという吉備地方の前期古墳の原則は、一国山3・4・5号墳も含め古墳時代前期の小型古墳群にも当てはまるものと考えられる。

しかし主体部主軸の方位は、大まかに見て、南北あるいはそれに直交する東西を指向するものの、その角度は最大50～60°の誤差を示

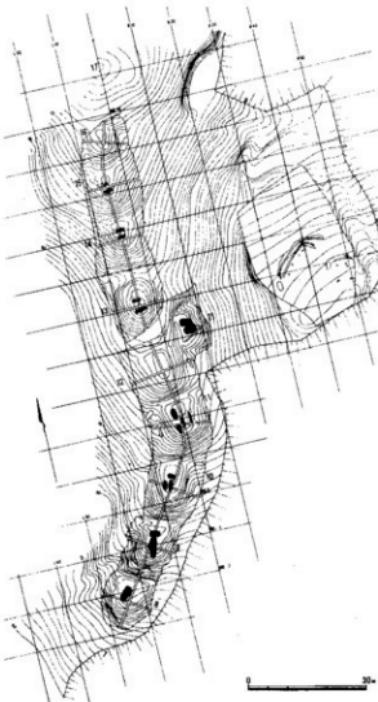


図107 殿山古墳群（註25より一部改変）

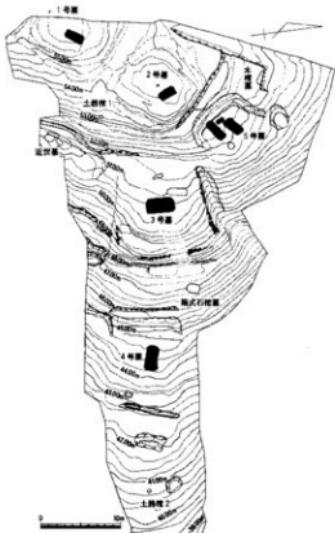


図108 郷境墳墓群（註31を一部改変）

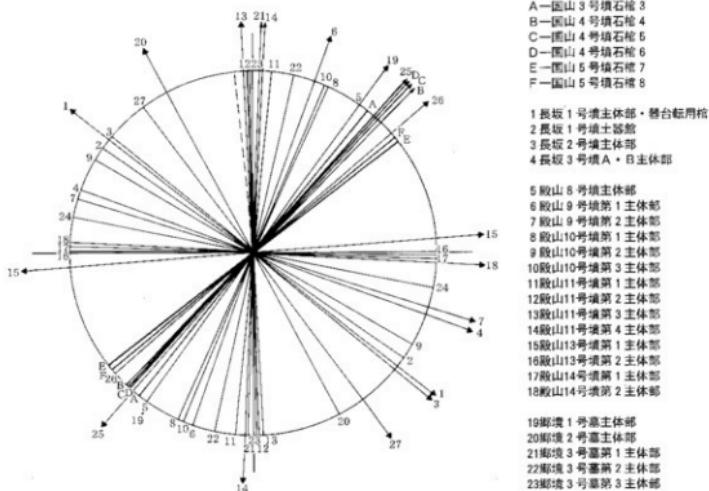


図109 前期古墳における埋葬主体の主軸と方位

殿山古墳群の主軸の角度は註25の文献より引用した
矢印方向は頭位（枕石等で方向の確定なもの）

ており、「南北に方位を取る」という規制が強く働いているとは言い難い。言い換れば南北あるいは東西を「漠然と」指向していると考えられる。

前記のうち、主体部主軸が比較的南北・東西の正方位に近い古墳は、殿山11号墳、郷境3号墓（以上南北）、殿山13・14号墳、郷境4号墓（以上東西）があるが、これらが立地する地形を観察すると殿山11・13・15号墳は、ほぼ南北にのびる尾根上に所在し、郷境3・4・5号墓はほぼ東西へのびている尾根上に所在していることが認められる。このことは古墳群の立地する尾根筋が延びる方位によって墳丘の主軸方位が決まり、それに平行あるいは直交して築かれることにより体部主軸の方位も自ずから決定されゆくと推測される。つまり一国山3・4・5号墳及び周辺部の前期古墳群における主体部は、墳丘の主軸にあわせることの方が、方位をあわせることよりもかなり優先されていると考えられるのである。但しこれらの古墳群で頭位の判明するものは、大まかに見て北あるいは東頭位であり、重葬の例

(註34) をのぞけば、西あるいは南頭位は見られない。従って、「南北に方位を取る」という規制は決して働いていないわけではない。これら古墳時代前期の小型古墳群は、墳丘の規模や構築方法から考えて、立地する場所の地形の影響を非常に受けやすいと考えられる。上記のような特徴は、地形の制約を受けながらも南北に方位を取り、かつ墳丘の主軸に平行ないし直交させるという、吉備地方の前期古墳の規制を追求した結果生じたものと推測される。

註

- (註1) 高橋進一「玉造遺跡と玉製品」『吉備の考古学的研究(下)』山陽新聞社 1992
- (註2) 杉山秀宏「古墳時代の鉄鎌について」『橿原考古学研究所論集第8』吉川弘文館 1989
- (註3) 註2前掲書によればⅦ期は隨庵古墳(総社市)、Ⅷ期は稻荷山古墳(埼玉)、東間部多第1号墳(千葉)、高林第72号墳(群馬)に相当する。
- (註4) 山本悦世・土井基司・田代健二「集成12須恵器」註1前掲書
- (註5) 高畠知功・平井泰男・柴田英樹「集成11土師器」註1前掲書
- (註6) 草原孝典「吉備地方の古墳群ー前・中期を中心にー」『季刊考古学71号』雄山閣 2000
- (註7) 註6前掲書によると草原氏は、足守地域には南半と北半にそれぞれ若干規模の大きな盟主的古墳の単位が存在し、南坂8号墳より約2km南の前方後方墳である上土田4号墳・1号墳が古墳時代前期の、方墳である南坂2号墳が古墳時代中期前半の、南坂9号墳が中期後半の、それぞれ字三井谷から上土田にかけての足守地域北半部における、盟主的古墳であったと推測している。今回の調査で從来一辺15mの方墳とされていた南坂8号墳が全長27mの前方後方墳と判明したことにより、上土田4・1号墳のさらに北側に、古墳時代前期の盟主的な前方後方墳が所在することになり、足守地域には3つの盟主的古墳の単位が存在する可能性もできた。南坂9号墳が、南坂8号墳の単位に含まれると仮定するなら、その勢範囲は足守地域の北半から、北端部へと縮小する可能性も考えられる。
- (註8) 鉄鐸の出土は韓国でも數例、古墳及び祭祀遺跡で確認されている。行田裕美「鉄鐸について」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第58集 西吉田北遺跡』津山市教育委員会 1997より
- (註9) 坂 睦『胡籠の系譜』『同志社大学考古学シリーズV 考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズ刊行会 1992
- (註10) A『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告81 山陽自動車道建設に伴う発掘調査5 二子14号墳』岡山県教育委員会 1993
B『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告83 山陽自動車道建設に伴う発掘調査7 富原西奥古墳』岡山県教育委員会 1993
C『定北古墳』岡山大学考古学研究室 1995
D『大谷1号墳』岡山県北房町教育委員会 1998
E『定東塚・西塚古墳』岡山大学考古学研究室 2001
F福本明・白石 純「溝喰を使用した横穴式石室の一例—倉敷市笹池東1号墳の測量調査』『環瀬戸内海の考古学—平井 勝氏追悼論文集一下巻』古代吉備研究会 2002
- (註11) 亀山行雄「7世紀の古墳」註1前掲書
- (註12) 尾上元規「第4章 考察1 終末期古墳の築造規格と変遷」註10C前掲書
- (註13) 註11C・D・E前掲書
- (註14) 註11前掲書
- (註15) 藤田憲司・伊藤晃「小迫大塚古墳」『岡山県史 考古資料』岡山県 1986
- (註16) 註10
- (註17) 今井堯「吉備における鏡配布体系」註1前掲書
- (註18) 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104 津寺遺跡』岡山県教育委員会 1996
- (註19) 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94足守川加茂A遺跡 足守川加茂B遺跡 足守川矢部南向遺跡』岡山県教育委員会 1995
- (註20) 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告94足守川加茂A遺跡 足守川加茂B遺跡 足守川矢部南向遺跡』

岡山県教育委員会1995)

- (註21) 岡山真知子「岡山県下出土の水銀朱出土遺物」註10F前掲書
- (註22) 北條芳隆氏は、池ノ内1号墳（奈良県）の赤色顔料を塗布した埋葬施設から石杵が出土せず、赤色顔料が見られない隣接の埋葬施設から石杵が出土している例から、個別葬送儀礼で用いられた用具が、そのまま副葬・埋葬されることなく別の機会に再使用されるか、埋葬に当たっての置き分けが意図的におこなわれた可能性を想定しておられる。（北條芳隆「葬送儀礼における朱と石臼」『長法寺南原古墳の研究』大阪大学文学部1992）より）
- (註23) 古瀬清秀「農耕具」『古墳時代の研究8 古墳II 副葬品』雄山閣 1991
- (註24) 安川満「第5章 まとめ 1、古墳の年代」『宗形神社古墳』岡山市教育委員会 1999
- (註25) 平井勝「第3節 副葬品」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告47 殿山遺跡 殿山古墳群』岡山県文化財保護協会 1982
- (註26) 註1前掲論文
- (註27) 註1前掲書
- (註28) 北條芳隆「墳丘と方位から見た七つ塚1号墳の位置」『七つ塚古墳群』七つ塚古墳群発掘調査団 1978
- (註29) 『長坂古墳群』岡山市教育委員会 1999
- (註30) 註25前掲書
- (註31) 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告89 山陽自動車道建設に伴う発掘調査1郷境墳墓群 2前池内遺跡 3後内池遺跡 4黒住・雲山遺跡 5甫崎天神山遺跡』日本道路公団広島建設局岡山工事事務所 岡山県教育委員会 1994
- (註32) 平井勝氏は、殿山13～16号及び21号を弥生墳丘とされている（平井勝「第Ⅶ章 結語 第1節古墳の年代と墳丘墓」註25前掲書）。龜山行雄氏は註31前掲書「Ⅲまとめ (4)郷境墳墓群の位置付け」表5において、13・14号墳を上東編年の下田所式、百間川編年の古墳時代Iに位置づけている。ここでは13・14号墳も古墳時代に含め、図に記入する。
- (註33) 磁北から真北に修正したのは註22前掲書内で北條芳隆氏が述べられている理由による。なおこの図の真北は、磁北から6° 東へ振った値である。
- (註34) 長坂1号墳石棺、殿山21号墳第1主体部は人骨の出土状況から重葬である。また殿山9号墳第1主体部、殿山11号墳第4主体部、殿山13号墳第1主体部は枕石の位置から重葬と推測される。

土器

地質番号	調査区	遺跡・土器名	種類	断面	口径	高さ	測定(cm)	色調		施土	焼成	形態・手法の特徴	備考		
								内面	外面						
1	南坂 8 号坑	P1	学生土器	灰陶	20	—	(1.95)	外：褐色(燒成 0.97R/-4)	内：褐色(燒成 0.97R/-4)	0.5~1 m の長石石英。	良好	口縁内面とモコナガ。口縁凹凸を全周有り。内面有り。口縁内面とモコナガ。断面はモコナガ。	神武洋文		
2	南坂 8 号坑	P1	学生土器	竹付け	17	22	—	(6.9)	外：褐色(燒成 0.97R/-4)	内：褐色(燒成 0.97R/-3)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
3	南坂 8 号坑	P1	学生土器	壺	14.4	—	—	(3.5)	外：褐色(燒成 0.97R/-4)	内：褐色(燒成 0.97R/-4)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
4	南坂 8 号坑	P1	学生土器	壺	11.6	—	—	(4.2)	外：褐色(燒成 0.97R/-4)	内：褐色(燒成 0.97R/-3)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
5	南坂 8 号坑	P1	学生土器	壺	—	—	14.1	(3.3)	外：褐色(燒成 0.97R/-3)	内：褐色(燒成 0.97R/-3)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
6	南坂 8 号坑	P1	学生土器	壺	17.7	—	—	(2.1)	外：褐色(燒成 0.97R/-4)	内：褐色(燒成 0.97R/-4)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
7	南坂 8 号坑	P1	学生土器	壺	—	—	9.6	(6.0)	外：褐色(燒成 0.97R/-4)	内：褐色(燒成 0.97R/-4)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
8	南坂 8 号坑	P5	土師壺	壺	—	—	(8.1)	外：褐色(燒成 0.97R/-5)	内：褐色(燒成 0.97R/-4)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義		
9	南坂 8 号坑	P5	土師壺	壺	(16.6)	—	—	(9.8)	外：褐色(燒成 0.97R/-6)	内：褐色(燒成 0.97R/-6)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
10	南坂 8 号坑	土師臼杵	土師器	壺	19.95	—	—	(12.6)	外：褐色(燒成 0.97R/-6)	内：褐色(燒成 0.97R/-6)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
11	南坂 8 号坑	土師臼杵	土師器	壺	—	—	29.6	6.5	(27.65)	外：褐色(燒成 0.97R/-6)	内：褐色(燒成 0.97R/-3)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義
12	南坂 8 号坑	埴輪	埴輪	円筒埴輪	25.3	—	14.85	(4.7)	外：褐色(燒成 0.97R/-6)	内：褐色(燒成 0.97R/-6)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
13	南坂 8 号坑	埴輪馬車	埴輪	円筒埴輪	33.4	—	15.75	(4.4)	外：褐色(燒成 0.97R/-6)	内：褐色(燒成 0.97R/-4)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
14	南坂 8 号坑	埴輪馬車	埴輪	円筒埴輪	27.3	—	(30.0)	外：褐色(燒成 0.97R/-4)	内：褐色(燒成 0.97R/-4)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義		
15	南坂 8 号坑	白土土壤	白土土壤	壺	14.9	—	—	(4.4)	外：灰(10YR 4/2) 内：灰(5YR 4/2)	外：褐色(燒成 0.97R/-1)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
16	南坂 8 号坑	白土土壤	白土土壤	壺	13.45	—	—	4.9	外：灰(10YR 4/1) 内：灰(5YR 4/1)	外：褐色(燒成 0.97R/-1)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
17	南坂 8 号坑	石墨土壺	石墨土壺	壺	10.9	—	—	4.55	外：灰(5YR 4/1) 内：灰(5YR 4/1)	外：褐色(燒成 0.97R/-5)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
18	南坂 8 号坑	石墨土壺	石墨土壺	壺	14.2	—	—	4.5	外：(NU 4/2) 内：(NU 4/2)	外：褐色(燒成 0.97R/-5)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
19	南坂 8 号坑	石墨土壺	石墨土壺	壺	12.75	—	—	4.5	外：褐色(燒成 0.97R/-1) 内：褐色(燒成 0.97R/-1)	外：褐色(燒成 0.97R/-1) 内：褐色(燒成 0.97R/-1)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
20	南坂 8 号坑	土師器	土師器	壺	—	—	4.8	外：灰(5YR 4/1) 内：灰(5YR 4/1)	外：褐色(燒成 0.97R/-1) 内：褐色(燒成 0.97R/-1)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義		
21	南坂 8 号坑	土師器	土師器	壺	12.25	—	—	4.65	外：灰(5YR 4/1) 内：灰(5YR 4/1)	外：褐色(燒成 0.97R/-1) 内：褐色(燒成 0.97R/-1)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
22	南坂 8 号坑	その他の遺物	学生土器	壺	—	—	—	(4.7)	外：褐色(燒成 0.97R/-5)	内：褐色(燒成 0.97R/-5)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
23	南坂 8 号坑	その他の遺物	学生土器	壺	16	—	—	(8.3)	外：褐(7.5YR 4/2) 内：灰(5YR 4/2)	外：褐色(7.5YR 4/2) 内：灰(5YR 4/2)	0.5~1 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
24	南坂 8 号坑	その他の遺物	学生土器	壺	—	—	—	—	外：褐(7.5YR 4/2) 内：灰(5YR 4/2)	外：褐色(7.5YR 4/2) 内：灰(5YR 4/2)	0.5~2 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	
25	南坂 8 号坑	その他の遺物	直立壺	壺	12.3	—	—	(8.45)	外：灰(7.5YR 4/2) 内：灰(5YR 4/2)	外：褐色(7.5YR 4/2) 内：灰(5YR 4/2)	0.5~2 m の長石石英。	良好	「筒内」等の焼成文字と竹付け。断面はモコナガ。	吉川信義	

() は現存箇所

26	南坂 8 号墳	その他の遺物	土師器	縁	30.6	—	(7.85) 外・縁付直筒 (10YR6/4)	0.5m位の長石石灰 赤色。	良好	外面ハケ口横部ユンゴサエ底ヨコナナ。内面口横部 はハケ口横部ヨコナナ。内外面ヨコナナ。		
27	一園山・第1 新IV区	P2b上層	輪削	縁	15.8	—	—	外・直筒 (10YR6/2)	0.5m位の長石石灰 赤色。	良好	端部折りだけヨリ深口縫。内外面ヨコナナ。	
28	一園山・第1 新IV区	P1・底上	土師質土器	深碗	10.05	—	4.3	内・灰白 (25YR5/2) 内・灰白 (25YR5/2)	0.5m位の長石石灰 赤色。	良好	底部中央寄りの方に盛り出る深部。口縁部等や内側。 横引き。	
29	一園山・第1 新IV区	P1・底上	土師質土器	台付壺	9.6	—	2.9	外・浅黄 (10YR5/3) 内・浅黄 (10YR5/3)	0.5m位の長石石灰 赤色。	良好	底部中央寄りの方に盛り出る深部。口縁部等や内側。 横引き。	
30	一園山・第1 新IV区	P1・底上	土師質土器	环	9.1	—	5	4.05 内・純黄 (10YR7/4)	0.5~1mの長石石灰 赤色。	良好	手球形施。局部は施付中少し剥離現。口縁部等はハケ 目模様。	
31	一園山・第1 新IV区	P2b上層	輪削	大盤	35.3	—	(8.3)	内・純黄 (10YR6/4) 内・純黄 (2.5YR6/3)	極良治土。0.5~1m位 含C。	普通	底面削痕えで底部、口縁部ヨコナテ開窓。	
32	一園山・第1 新IV区	P1・底上	灰土器	杯	31.7	—	(9.85)	外・浅黄 (10YR6/4) 内・浅黄 (5YR6/6)	0.5~1mの長石石灰 赤色。	良好	口縁部等もハケ目模様。	
33	一園山・第1 新IV区	P2下層	灰土器	高56	23.9	—	(4.1)	外・褐 (5YR6/6) 内・褐 (5YR6/6)	0.5~1mの長石石灰 赤色。	良好	口縁部等もハケ目模様。	
34	一園山・第1 新IV区	P2下層	灰土器	高口器皿	—	—	—	外・褐 (5YR6/6) 内・褐 (5YR6/6)	0.5~1mの長石石灰 赤色。	良好	口縁部等もハケ目模様。	
35	一園山・第1 新IV区	灰土器3	灰土器	台付壺口	—	12.1	16.6 (13.3)	内・外・純黄 (10YR6/4) 内・外・純黄 (10YR6/4)	0.5~1mの長石石灰 赤色。	良好	前面に最高点を持つ圓錐形。頭部外側は腹のハラミガ 半ばり。頭部は強引に削り取られ、内側はハラミガ半ばり。 頭部は強引に削り取られ、内側はハラミガ半ばり。	
36	一園山・第1 新IV区	灰土器3	灰土器	台付壺口	(6.9)	—	(7.5)	—	内・褐 (7.5YR7/6) 内・褐 (7.5YR7/6)	0.5~1m位の長石石灰 赤色。	良好	頭部はハラミガ半ばり。とぶくの印象の直筒。
37	一園山・第1 新IV区	灰土器3	灰土器	縁	—	9.4	3.6 (8.25)	外・褐 (5YR6/6) 内・褐 (5YR6/6)	0.5~1m位の長石石灰 赤色。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。	
38	一園山・第1 新IV区	灰土器2	灰土器	高口器皿	—	12.0	(4.9)	外・褐 (5YR6/6)	0.5~1m以下の大粒少し。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。	
39	一園山・第1 新IV区	段状焼物A F8	土師質土器	碗	9.1	—	(3.0)	外・淡黄 (2.5YR6/4) 内・淡黄 (10YR5/3)	極良治土。0.5m位の 長石石灰。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。	
40	一園山・第1 新IV区	段状焼物B F8	段状石4 №1	土師質土器	深碗	9.7	—	4.3	内・淡黄 (10YR6/4)	0.5~2mの長石石灰 多し、高さ約2.5m。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。
41	一園山・第1 新IV区	段状焼物 F8	段状石4 №2	土師質土器	深碗	9.65	—	5.6	内・淡黄 (2.5YR5/3)	0.5~1mの長石石灰 多し。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。
42	一園山・第1 新IV区	段状焼物 F8	段状石4 №3	土師質土器	深碗	—	—	—	内・淡黄 (2.5YR5/3)	0.5~1mの長石石灰 多し。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。
43	一園山・第1 新IV区	段状焼物 F8	段状石4 №4	土師質土器	碗	—	—	—	内・外・純黄 (10YR7/4)	0.5~1mの長石石灰 多し。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。
44	一園山・第1 新IV区	段状焼物 F8	段状石4 №5	土師質土器	深碗	9.5	—	2.5	外・淡黄 (10YR6/4)	0.5~1mの長石石灰 多し。	良好	頭部はハラミガ半ばり。頭部はハラミガ半ばり。

45	一里山・第1 那波秋葉谷	表土上層	二疊層土器 薄台付陶	深窓	-	-	3.9	(1.1)	外：深窓 (5YR5/3), 内：深窓 (5YR6/3)	0.5~1mの長石石英、 金剛石等。白色含む。	良好	へそ側であるが、低かな高台がけぐ。
46	一里山・第1 那波秋葉谷	底面下落とし	土堆實土器 薄台付陶	深窓	-	-	-	-	内：灰白 (2.5YR7/2)	0.5~1mの長石石英。	良好	底面は粘り付け、泥など。
47	那波秋葉谷	表土上層	二疊層土器 薄台付陶	小皿	5.7	-	6.1	1.05	外：黒い縁 (7.5YR7/4) 内：黒い縁 (5YR7/4)	0.5~1m以下の粗石少し。	良好	底面で引き剥がされた程度の体形、外底面はヘタ。
48	一里山・第1 那波秋葉谷A No.7	底面過溝A No.7	土堆實土器 薄台付陶	小皿	6.25	-	4.75	1.23	外：軽い縁 (5YR6/4) 内：盤 (5YR6/6)	粗粒砂土上。 褐色粘岩。	良好	外底面ともココナチ、外堅固は板状。
49	一里山・第1 那波秋葉谷	底面とし	土堆實土器 厚	环	9.3	-	5	2.15	内：盤 (5YR6/6)	0.5~1mの長石石英、 赤色较多。	良好	口縁部ナガテより外区、外底面はココナチ、外底面角
50	一里山・第1 那	表土上層	表土器	盤	11	-	-	(10.2)	外：灰白 (5YR7/4) 内：灰白 (5YR6/4)	0.5~1mの長石石英、 金剛石等。	良好	底面ヨコナチ、下半にハ ケヅリ跡とナメ、下半ケヅリ。
51	一里山・第1 那	表土中	表土器	表土器	-	-	20.8	(2.75)	外：黒い縁 (2.5YR6/6) 内：灰白 (5YR6/4)	0.5~1mの長石石英。	良好	外表面ヨコナチ。
52	一里山・第1 那	南面過溝	表土器	表	24.4	-	-	(9.1)	内：盤 (5YR6/6)	0.5~1mの長石石英、 赤色土丸むし。	良好	内底面へカケヅリ形、ナメ、 赤色濃い印記。
53	一里山・第1 那	斜面	表土器	鉢	-	-	-	-	内：盤 (5YR6/6)	0.5~1mの長石石英。	良好	底面土色濃い印記。
54	一里山・第1 那	南面過溝	表土器	鉢	-	-	-	-	内：灰白 (2.5YR5/6)	0.5~1mの長石石英、 金剛石等。	良好	底面ヨコナチ。
55	一里山・第1 那	土壤土内	表土器	表	-	-	-	-	内：灰白 (5YR6/4) 外：灰白 (5YR6/4)	0.5~1mの長石石英、 金剛石等。	良好	底面が外見大きく赤茶、 そこには黒文、口縁部に擦 り付いた跡。
56	一里山・第1 那	表山地	表土器	盤	-	-	-	-	内：灰白 (5YR6/1)	0.5~1mの長石石英。	良好	手形・手印・土上印跡。
57	一里山・第1 那	表山地	表土	盤	-	-	-	-	内：灰白 (5YR6/1)	細かな黒点が見られる。	良好	口縫部に黒い印記。
58	一里山・第1 那	表山地	表土	盤	-	-	-	-	内：灰白 (5YR6/1)	0.5~1mの長石石英。	良好	口縫部に黒い印記。
59	一里山・第1 那	十畳場上内	土堆實土器 内耳付陶	深窓	26.3	-	-	(4.7)	内：軽い縁 (5YR6/6-3)	0.5~1mの長石石英。	良好	手形手印の跡と同様、 底面にヨコナチの調整。
60	一里山・第1 那	南面過溝内	土堆實土器 絹	深窓	26	-	-	(7.5)	外：灰白 (5YR5/2) 内：灰白 (5YR6/3)	0.5~1mの長石石英。	良好	手形手印の跡と同様、 底面にヨコナチの調整。
61	一里山・第1 那	南面過溝	土堆實土器 絹	深窓	9.2	-	(3.2)	3.65	外：黒い縁 (5YR7/4) 内：灰白 (5YR6/4)	0.5~1mの長石石英。	良好	手形手印の跡と同様、 底面にヨコナチの調整。
62	一里山・第1 那	南面過溝	土堆器	小皿	6.3	-	5.15	1.1	内：盤 (5YR6/4)	0.5~1mの長石石英。	良好	手形手印の跡と同様、 底面にヨコナチの調整。
63	一里山・第1 那	斜面・池 斜土中	土堆實土器 絹	深窓	43.7	54.4	-	(51.96)	外：灰白 (5YR6/0) 内：灰白 (5YR7/0)	0.5~1mの長石石英。	良好	口縫部張り付ける。
64	一里山・第1 那	南面斜面	土堆實土器 絹	皿	10.3	-	7.8	2.65	外：灰白 (5YR6/4) 内：灰白 (5YR6/3)	0.5~1mの長石石英。	良好	手形手印の跡と同様、 底面にヨコナチの調整。
65	一里山・第1 那	南面斜面	土堆實土器 絹	皿	10.4	-	7.2	2.3	内：灰白 (5YR6/4)	0.5~1mの長石石英。	良好	手形手印の跡と同様。

() は疑問

66	一国山・第1 新田区	南斜面 新田斜坡上中 土的質土器	Ⅲ	9.9	—	7.65	1.8	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。外端部ヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、微 砂岩。	風干 外底へ切りか、内面チリ等。	内底面の一握 は、僅く付かる。	
67	一国山・第1 新田区	南斜面 新田斜坡上中 土的質土器	Ⅲ	10.1	—	7.6	1.8	内・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、微 砂岩、微青色。	風干 外底へ切りか、内面チリ等。	外底へ切りか、内面チリ等。	
68	一国山・第1 新田区	南斜面 新田斜坡上中 土的質土器	Ⅲ	10.5	—	7.65	2.1	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 外底の面がやや凹む。民部と外底の後が削ぎでな い。底やや立ちあがる。口端部が外反する。	良好 底と同様、内底面へ立てる。削ぎでないため品良、 底より高くしてある。	
69	一国山・第1 新田区	南斜面 新田斜坡上中 土的質土器	Ⅲ	9.9	—	7.0	2.2	内・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、微 砂岩。	良好 底より高くしてある。	良好 底より高くしてある。	
70	一国山・第1 新田区	南斜面 新田斜坡上中 土的質土器	Ⅲ	10.9	—	5.9	1.8	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底より高くしてある。	良好 底より高くしてある。	
71	一国山・第1 新田区	南斜面表土中 土壤器	Ⅲ	—	—	—	—	外・底・灰 8.1.1. 防水	底面 底面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は格子目タマ、P面はチマ、 側面は波状。	良好 底面は格子目タマ、P面はチマ、 側面は波状。	
72	一国山・第1 新田区	南斜面 土壤器	Ⅲ	9.5	—	6.6	2.65	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は波状となり、側面にはハケ目、側面は直角、 側面は含む。	良好 底面は波状となり、側面にはハケ目、側面は直角、 側面は含む。	
73	一国山・第1 新田区	南斜面 土壤器	Ⅲ	6.2	—	4.75	1.5	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角、 側面から口端部はヨコナフ。	良好 底面は直角、側面は直角、 側面から口端部はヨコナフ。	
74	一国山・第1 新田区	南斜面 土壤器	Ⅲ	—	—	4.7	1.05	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
75	一国山・第1 新田区	南斜面 土壤器	Ⅲ	—	—	(3.65)	0.55	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
76	一国山・第1 新田区	内斜面 土壤器	Ⅲ	—	—	32.8	—	外・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
77	一国山・第1 新田区	西斜坡上 土的質土器	Ⅲ	—	—	9.5	—	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
78	一国山・第1 新田区	西斜坡上 土的質土器	Ⅲ	9.3	—	4.2	3.05	内・外・側 内・外・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、金 屬合化。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
79	一国山・第1 新田区	西斜坡上 土的質土器	Ⅲ	9.6	—	—	1.75	外・内・側 内・外・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、金 屬合化。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
80	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	—	—	内・外・側 内・外・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、金 屬合化。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
81	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	—	—	内・外・側 内・外・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、金 屬合化。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
82	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	11.0	—	5.9	2.6	土・施 施・施	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。
83	一国山・第1 新田区	X・物ぬ 外生土器	Ⅲ	—	—	(8.35)	1.9	外・付・直 外・付・直	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
84	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	—	—	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
85	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	—	—	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
86	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	(3.7)	0.94	明・明・明 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
87	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	(3.4)	0.55	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
88	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	6.4	1.75	外・側・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	
89	一国山・第1 新田区	斜面横 斜面横	Ⅲ	—	—	(4.4)	0.5	外・側 内・側	側面 側面と側面のヨコナフ。	風干 0.5~1mの長石石英、 砂岩。	良好 底面は直角、側面は直角。	良好 底面は直角、側面は直角。	

() は種の所

90	一畠山・第1 新IV区	斜斜面とし 斜面とし	發生土器 發生土器	壺	20.8	—	—	(6.3) 外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT67/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
91	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	35.4	—	—	(6.7) 外: 壁 (SYT66/4) 内: 壁 (SYT67/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
92	一畠山・第1 新IV区	窓とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	内: 壁 (SYT66/6)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
93	一畠山・第1 新IV区	斜面とし 斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	内: 壁 (SYT66/6)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
94	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	8.5	—	—	(6.8) 外: 壁 (SYT67/4) 内: 壁 (SYT68/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
95	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 No.1 發生土器	壺	9.5	—	—	(7.6) 外: 壁 (SYT66/6)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
96	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT67/4) 内: 壁 (SYT68/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
97	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT67/4) 内: 壁 (SYT68/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
98	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT67/4) 内: 壁 (SYT68/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
99	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT66/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
100	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT66/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
101	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT66/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
102	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT66/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
103	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	8.0	11.3	—	(7.1) 外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT66/6)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
104	一畠山・第1 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	小形壺	—	8.7	3.1	—	0.5~0.5mmの黄白色、 金屬含む。	良好
105	一畠山・第2 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT65/3) 内: 壁 (SYT66/4)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
106	一畠山・第2 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT65/2) 内: 壁 (SYT66/2)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
107	一畠山・第2 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT65/1) 内: 壁 (SYT66/1)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
108	一畠山・第2 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT67/3) 内: 壁 (SYT68/4)	0.5~0.5mmの黄白色、 金屬含む。	良好
109	一畠山・第3 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT66/0) 内: 壁 (SYT67/3)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
110	一畠山・第3 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT67/6)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好
111	一畠山・第3 新IV区	斜面とし	發生土器 發生土器	壺	—	—	—	外: 壁 (SYT66/6) 内: 壁 (SYT67/6)	0.5~1mmの黄白色、 金屬含む。	良好

() は前文

112	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	9.8	9.9	-	(5.25) 外縁高い壇 内縁低い壇 (SYTB/-4)	良好 の外縁高い壇、口縁高い壇、内縁低い壇が外反、内縁低い壇は横 の外縁高い壇、内縁低い壇、内縁高い壇で複数。
113	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	10.6	-	7.9	5.55 内: 横 (SYTB/-6)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
114	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	2.9	(4.6) 外: 焼い陶器 内: 焼い陶器 (SYTB/-4)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
115	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	15.45	- (11.05) 内: 横 (SYTB/-6)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
116	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	15.2	- (11.5) 外: 烧 内: 横 (SYTB/-4)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
117	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	13.5	21.95 内: 焼い陶器 (SYTB/-4)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
118	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	16.7	- (3.4) 内: 烧 (SYTB/-6)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
119	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	13.4	- (10.3) 内: 横 (SYTB/-6)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
120	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	-	- (6.06) 内: 烧 (SYTB/-6)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
121	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	22.9	- (10.4) 内: 横 (SYTB/-6)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
122	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	13.3	(7.1) 内: 焼 (SYTB/-8)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
123	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	7.6	8.6 内: 横 (SYTB/-1)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
124	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	8.2	11.5 内: 横 (SYTB/-0)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
125	-園山古墳群 園山2号墳	土師器 灰	-	-	-	- 内: 横 (SYTB/-2)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
126	-園山古墳群 園山2号墳 石室内	土師器 灰	-	-	-	- 内: 横 (SYTB/-1)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
127	-園山古墳群 園山1号墳	土師器 灰	-	-	16.3	6.1 内: 横 (SYTB/-6)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
128	-園山古墳群 その他の遺物	土師器 灰	-	-	12.7	(0.15) 内: 横 (SYTB/-3)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
129	-園山古墳群 その他の遺物	土師器 灰	-	-	(7.1)	内: 横 (SYTB/-0)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
130	-園山古墳群 その他の遺物	土師器 灰	-	-	4.3	2.96 内: 横 (SYTB/-0)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。
131	-園山古墳群 その他の遺物	土師器 灰	-	-	10.7	(1.4) 内: 横 (SYTB/-1)	良好 の外縁高い壇、内縁低い壇で複数。

() は現存部

金属製品

規格番号	出土地区	遺物・土器名	特徴	法量 (m)		材質	備考
				最大幅	最大厚		
M.1	南版 5 号墳	玉柄鉗 2	鉗頭 全長：27.6cm、5.3mm、66.5mm	7.0	7.0	万面、27.5mm、5.0	12.67 鉄
M.2	南版 8 号墳	玉柄鉗 2	鉗頭 全長：27.6cm、5.3mm、66.5mm	7.0	7.0	万面、25.5mm、5.0	16.68 鉄
M.3	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	?	鉗頭 (168.0)	6.4	6.5	万面、25.5mm、5.0	所蔵。
M.4	一塙山城・第 1 号IV区 P-2b	?	鉗頭 (33.5)	(51.0)	24.0	19.32 鉄	新規。
M.5	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	?	鉗頭 66.6	5.5	5.9	17.05 鉄	
M.6	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	?	鉗頭 66.0	110.6	16.0	138.92 鉄	
M.7	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A-P-6	鉗頭 ?	44.0	28.5	18.35 鉄	大柄等の留め合せ。
M.8	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A 鉗?	鉗頭 (102.5)	8.0	6.0	27.99 鉄	
M.9	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A	鉗頭 (111.8)	9.0	6.5	39.48 鉄	新規。
M.10	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A	鉗頭 (116.0)	15.0	7.5	29.49 鉄	
M.11	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A-P-9	鉗頭 刀子?	(128.5)	8.5	20.54 鉄	一部折損。 新規。
M.12	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 B	鉗頭 ?	(104.0)	9.0	35.04 鉄	新規。
M.13	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A	鉗頭 (104.5)	4.5	31.31 鉄	新規。	
M.14	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A	鉗頭 92.0	7.0	27.45 鉄	一部折損。	
M.15	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A	鉗頭 (98.5)	6.5	19.32 鉄	一部折損。	
M.16	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 レンガ内	鉗頭 (20.0)	前後23.4	—	5.56 鉄	
M.17	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 レンガ内	鉗頭 (18.0)	前後21.6	—	11.96 鉄	
M.18	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A	鉗頭 (41.0)	7.0	7.0	6.77 鉄	新規、本質特殊。
M.19	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗状滑輪 A	鉗頭 不明	3.6	—	85.46 鉄	所蔵。
M.20	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鐵錠土おとし	鉗頭 (106.8)	35	2.0	41.87 鉄	一整件返り大切。
M.21	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	?	鉗頭 (46.0)	6.5	5.9	4.12 鉄	新規。
M.22	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (58.0)	13.0	7.5	31.62 鉄	頭書きが付 ている。
M.23	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (65.5)	11.5	—	37.44 鉄	
M.24	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (69.2)	15.0	5.5	18.58 鉄	
M.25	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (46.0)	12.8	6.0	14.51 鉄	新規。
M.26	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (44.5)	7.5	6.6	12.81 鉄	新規。
M.27	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (54.0)	6.0	5.0	12.05 鉄	新規。
M.28	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (60.0)	6.5	4.2	4.77 鉄	新規。
M.29	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (56.5)	9.0	7.0	17.03 鉄	新規。
M.30	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	?	鉗頭 (65.0)	19.7	5.0	16.96 鉄	
M.31	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	?	鉗頭 (32.5)	2.5	2.0	0.67 鉄	
M.32	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (27.8)	3.0	3.0	0.95 鉄	
M.33	一塙山城・第 1 号IV区 P-2	鉗頭	鉗頭 (45.5)	3.5	3.5	1.54 鉄	头部折損。

() は複数件

M34	・飯山城・第1番町区	御所町造武十中	町	(47.0)	6.0	5.5	6.38	株	折角。
M35	・飯山城・第1番町区	御所町造武土中	町	(33.5)	5.5	5.0	3.97	株	折角。
M36	・飯山城・第1番町区	西仲町	町	161.0	17.0	6.6	40.52	株	玉一郎久保。
M37	・飯山城・第1番町区	西仲町	町	(161.0)	8.0	5.5	35.53	株	玉一郎久保。
M38	・飯山城・第1番町区	下げ	町	(130.2)	9.5	8.0	31.54	株	
M39	・飯山城・第1番町区	下げ	町	(114.7)	8.0	8.0	29.91	株	次の面積 5.6×5.
M40	・飯山城・第1番町区	新町坐敷	丁	43.5	19.0		10.71	株	新町坐敷。
M41	・飯山城・第1番町区	新町坐敷	町	(59.2)	36.2	8.0	12.28	株	新町坐敷。
M42	・飯山城・第1番町区	下げ	町	(58.0)	5.0	6.0	6.04	株	御手遣し通り。
M43	・飯山城・第1番町区	西仲町	町	(37.5)	4.5	3.6	1.93	株	折角。
M44	・飯山城・新	表土中	町	(65.5)	7.6	6.0	15.62	株	新田。
M45	・飯山城・二郎	表土中	町	(41.5)	4.0	4.0	3.66	株	折角。
M46	・飯山城・新	表土中	町	(42.5)	5.0	4.0	10.19	株	完備久保。
M47	・飯山城・二郎	尚西朴面	町	(175.5)	6.5	6.6	41.35	株	一郎折角。
M48	・飯山城・新	新町坐敷	古戻	16	2.45	—	1.3	3.36	株
M49	・飯山城・新	新町坐敷	古戻	16	2.45	—	1.1	2.86	株
M50	・飯山城・第1番町IV	セクシッシュテナ	古戻	—	—	—	—	—	元忍曾、17世。
M51	・飯山城・第1番	表保	小戻	16	2.41	—	1.0	1.46	株
M52	・飯山城・第1番	新町坐敷	古戻	16	2.45	—	0.8	1.77	株
M53	・飯山城・第1番町区	表土中	古戻	—	—	—	—	—	些少半蔵、17世。
M54	・飯山城・新	段波溝堀A 木庭上層	古戻	—	—	—	—	—	元治半蔵、17世。
M55	・飯山城・第1番IV	表土中	古戻	16	2.33	—	1.2	2.49	株
M56	・飯山城	表保 露櫛土中	台戻	16	2.12	—	1.1	1.59	株
M57	・飯山古瀬村	1	一園山1号墳石化	直刀	173.0	万基：27.0 基：18.0	万基：26.5 基：19.5	—	株
M58	・飯山古瀬村	1	一園山1号墳古背	直刀	60.0	万基：26.5 基：19.5	万基：26.0 基：19.0	—	株
M59	・飯山古瀬村	2裏塁内	弓張石背	新富	—	—	—	—	株
M60	・飯山古瀬村	2裏塁	弓張石背	新	(35.0)	7.4	2.5	1.94	株
M61	・飯山古瀬村	2裏塁	弓張石背	新	(49.2)	8.0	3.0	2.68	株
M62	・飯山古瀬村	2裏塁	弓張石背	新	(141.5)	12.5	5.0	16.04	株
M63	・飯山古瀬村	2裏塁	弓張石背	新	(153.8)	10.5	5.5	17.46	株
M64	・飯山古瀬村	2裏塁	弓張石背	新	(95.0)	7.0	4.0	6.97	株
M65	・飯山古瀬村	2裏塁	弓張石背	新	(156.5)	5.5	4.5	13.48	株

M66	一畠山古墳群 —畠山古墳群	2 号墳 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(80.0) —(71.7)	6.5 9.5	4.0 1.0	8.07 7.25	铁 铁
M67	一畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(51.0) —(54.0)	12.5 2.06	1.0 2.5	1.83 14.09	铁 铁
M68	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(56.0) —(56.0)	— —	5.0 6.0	5.90 5.97	铁 铁
M69	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(68.5) —(67.0)	— —	6.0 2.4	5.97 4.27	铁 铁
M70	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(22.6) —(22.6)	25.5 22.6	1.8 —	2.56 2.56	铁 铁
M71	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(21.3) —(22.0)	27.4 15.5	2.8 1.0	1.43 1.43	铁 铁
M72	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(57.0) —(57.0)	2.4 2.3	1.5 0.8	12.54 6.59	铁 铁
M73	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(36.0) —(36.0)	— —	1.0 25.0	4.04 1.6	铁 铁
M74	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(104.0) —(104.0)	6.5 6.5	6.5 6.5	21.4 21.4	铁 铁
M75	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(61.0) —(61.0)	6.6 6.6	6.0 6.0	20.68 20.68	铁 铁
M76	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(36.0) —(36.0)	9.5 9.5	6.0 6.0	10.89 10.89	铁 铁
M77	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(59.0) —(59.0)	5.5 5.5	5.5 5.5	18.09 18.09	铁 铁
M78	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(67.0) —(67.0)	7.2 7.2	6.5 6.5	10.31 10.31	铁 铁
M79	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(60.0) —(60.0)	7.5 —	6.5 —	10.49 —	铁 —
M80	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(36.0) —(36.0)	— —	6.5 —	10.96 —	铁 —
M81	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(59.0) —(59.0)	— —	6.0 —	10.96 —	铁 —
M82	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(67.0) —(67.0)	— —	6.5 —	10.96 —	铁 —
M83	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(60.0) —(60.0)	— —	6.5 —	10.96 —	铁 —
M84	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(36.0) —(36.0)	— —	6.5 —	10.96 —	铁 —
M85	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(59.0) —(59.0)	— —	6.5 —	10.96 —	铁 —
M86	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(36.0) —(36.0)	— —	6.5 —	10.96 —	铁 —
M87	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(218.0) —(218.0)	4.0 11.7	4.0 —	33.39 33.39	铁 铁
M88	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(171.0) —(171.0)	12.3 —	7.0 —	61.68 61.68	铁 铁
M89	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(111.0) —(111.0)	34.0 —	2.3 —	49.49 49.49	铁 铁
M90	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(101.0) —(101.0)	30.5 —	2.0 —	38.99 38.99	铁 铁
M91	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(72.0) —(72.0)	— —	2.4 —	11.14 —	铁 —
M92	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(60.0) —(60.0)	— —	2.0 —	23.75 —	铁 —
M93	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(165.0) —(165.0)	35.0 10.0	2.2 7.5	16.66 44.29	铁 铁
M94	—畠山古墳群 —畠山古墳群	2 畠山 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	鐵 —畠山 1 号墳石棺 2 畠山	(117.0) —(117.0)	9.0 5.2	5.2 5.2	30.17 30.17	铁 铁

() は埋葬長

五類

標本番号	出土地区	遺構・土層名	財物	法面 最大幅	法面 最大厚	孔径	直径 (cm)	材質	備考
J.1	南区6号墓	南区6号墳主体部	菅玉	(3.2)	5.0	4.0	3.6	0.66	青色瑪瑙器(グリーンガラス)
J.2	-	-南区1号墳石棺	菅玉	33.0	5.9	4.0	2.6	0.75	碧玉
J.3	-	-南区1号墳石棺	菅玉	35.0	4.6	4.9	2.6	0.7	碧玉
J.4	-南区1号墳石棺	-南区1号墳石棺	菅玉	(22.6)	6.5	5.5	1.5	0.41	褐色瑪瑙器(グリーンガラス)
J.5	-	-南区1号墳石棺	菅玉	(21.6)	5.4	4.5	1.8	0.24	褐色瑪瑙器
J.6	-	-南区1号墳石棺	菅玉	(18.1)	6.0	5.8	1.5	0.21	褐色瑪瑙器(グリーンガラス)
J.7	-	-南区1号墳石棺	菅玉	23.0	14.5	8.5	3.0	2.57	松原器
J.8	-	-南区1号墳石棺	玉	7.6	6.6	7.7	1.5	0.39	ガラス
J.9	-	-南区1号墳石棺	玉	6.9	5.0	7.8	1.6	0.32	ガラス
J.10	-	-南区1号墳石棺	玉	6.0	8.6	7.5	1.5	0.36	ガラス
J.11	-	-南区1号墳石棺	玉	7.0	7.8	8.0	1.6	0.34	ガラス
J.12	-	-南区1号墳石棺	玉	6.5	6.8	7.8	1.5	0.23	ガラス
J.13	-	-南区1号墳石棺	玉	6.0	8.2	8.5	1.6	0.37	ガラス
J.14	-	-南区1号墳石棺	玉	5.0	8.0	8.0	1.4	0.26	ガラス
J.15	-	-南区1号墳石棺	玉	5.4	8.3	7.8	1.6	0.29	ガラス
J.16	-	-南区1号墳石棺	玉	5.7	9.1	7.9	1.4	0.37	ガラス
J.17	-	-南区1号墳石棺	玉	5.6	8.0	7.6	1.6	0.40	ガラス
J.18	-	-南区1号墳石棺	玉	5.5	7.8	7.7	1.6	0.26	ガラス
J.19	-	-南区1号墳石棺	玉	5.0	7.4	7.4	1.4	0.20	ガラス
J.20	-	-南区1号墳石棺	玉	6.0	7.2	6.8	1.5	0.25	ガラス
J.21	-	-南区1号墳石棺	玉	4.4	7.4	7.4	1.6	0.22	ガラス
J.22	-	-南区1号墳石棺	玉	4.2	7.6	7.4	1.4	0.19	ガラス
J.23	-	-南区1号墳石棺	玉	6.0	7.6	7.5	1.0	0.38	ガラス
J.24	-	-南区1号墳石棺	玉	4.9	7.0	6.5	1.7	0.21	ガラス
J.25	-	-南区1号墳石棺	玉	3.4	7.0	6.4	1.2	0.34	ガラス
J.26	-	-南区1号墳石棺	玉	4.4	7.1	7.1	1.6	0.20	ガラス
J.27	-	-南区1号墳石棺	玉	4.3	7.0	6.2	1.6	0.16	ガラス
J.28	-	-南区1号墳石棺	玉	4.6	6.5	6.0	1.6	0.16	ガラス
J.29	-	-南区1号墳石棺	玉	4.5	7.0	5.5	1.5	0.16	ガラス
J.30	-	-南区1号墳石棺	玉	4.9	5.8	5.5	1.5	0.13	ガラス
J.31	-	-南区1号墳石棺	玉	5.4	4.8	4.8	1.0	0.10	ガラス
J.32	-	-南区1号墳石棺	玉	5.8	5.0	5.0	1.8	0.13	ガラス
J.33	-	-南区1号墳石棺	玉	4.4	3.6	4.0	1.0	0.06	ガラス

() は網戸表・復元部分の値

玉類

J34	—廬山吉澳群 —廬山3号墳石棺 3	碧玉	36	7	5.6	2.6	1.57 (0.45)	碧玉
J35	—廬山吉澳群 —廬山3号墳石棺 3	碧玉	19.4	5.5	4.5	5.5	—	碧玉

石製品

編號番号	產土地區	產地・土質名	情形	計測值 (cm)		重量 (g)	石材	備考
				最大長	最火幅			
S.1	—廬山鐵一標目区	南園里上Pn 南園里下Pn	鐵	12.35	高：6.0 底：5.5	207.00	粘板岩	淡黃褐色。
S.2	—廬山鐵一標目区	斜面生積	鐵石	13.5	3.15	207.96	鐵灰岩	
S.3	—廬山鐵一標目区	斜面生積	鐵石	7.65	3.30	50.26	斜板岩	鐵石。
S.4	—廬山鐵一標四區	沒狀體A泥岩面上	鐵石	13.75	2.55	169.44	粘板岩	
S.5	—廬山鐵一標四區	西側山壁土內	鐵石	11.96	5.20	1.00	斜板岩	
S.6	—廬山鐵一標	表七內	鐵石	2.90	3.05	2.80	47.68	鐵灰岩
S.7	—廬山鐵	流土中	石礫	3.55	2.05	0.30	2.15	ナメカイト
S.8	—廬山吉澳群	—廬山1号坑沉築	鐵鏈甲	4.50	—	1.60	37.10	鐵灰岩
S.9	—廬山吉澳群	—廬山3号墳棺灰石棺 3	石作	10.60	5.70	4.30	296.0	鐵灰岩



南坂 8 号墳遠景
(西から)



主体部検出状況
(東から)



主体部床面
(北西から)

図版 2



主体部北西壁
(南東から)



主体部床面西半
(南西から)



後方部北側断面
(西から)

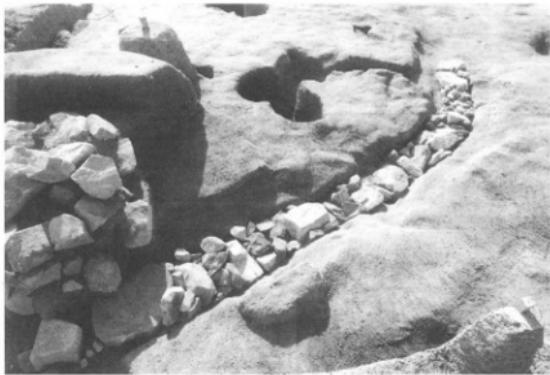
図版 3



後方部南側断面
(西から)



排水溝上面
(北から)



排水溝・主体部接続部
(北から)

図版 4



排水溝・主体部接続部（拡大）
(北西から)



主体部墓壙
(北西から)



主体部墓壙掘上り
(南東から)

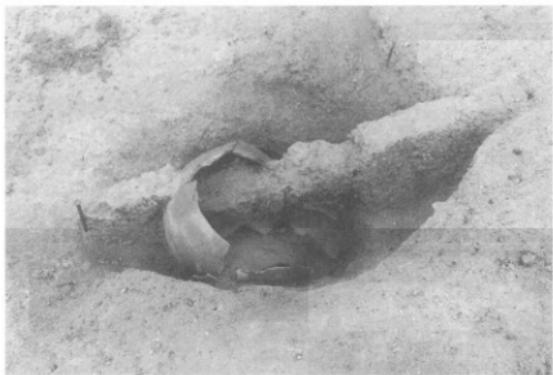
図版 5



P 1 土器出土状況
(北から)

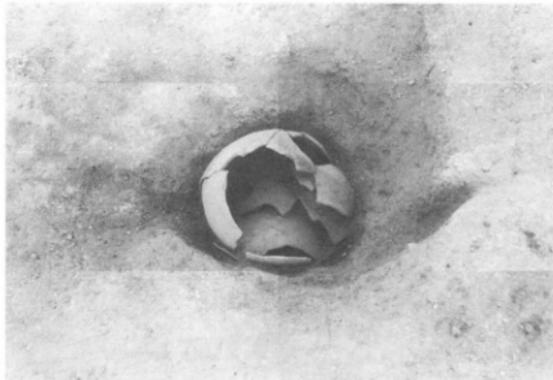


南坂 8 号墳墳丘
築造以前遺構面
(北西から)



土器棺墓断面
(南から)

図版 6



土器棺検出状況
(北から)



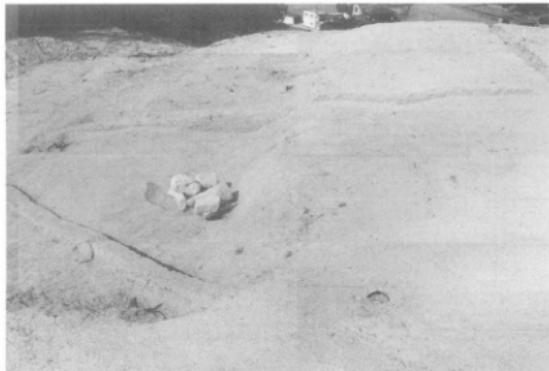
埴輪棺検出状況
(北東から)



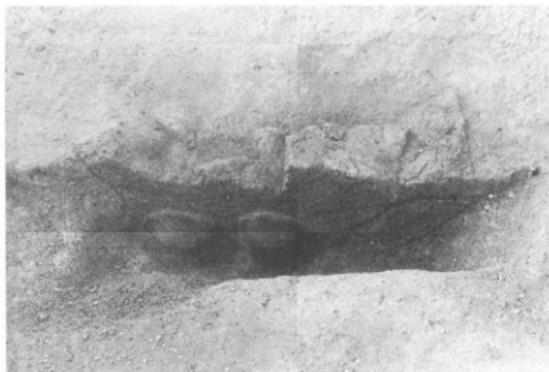
埴輪棺埋納状況
(南から)



石蓋土墳墓 1
遺物出土状況
(南西から)

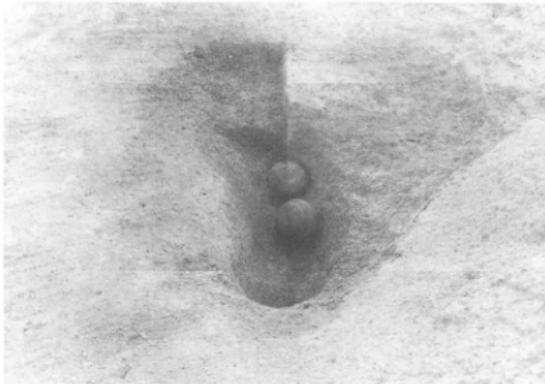


石蓋土墳墓 2・土器棺墓
検出状況
(南東から)



石蓋土墳墓 2 断面
(南から)

図版 8



石蓋土墳墓 2
(東から)



主体部 2
(北東から)



主体部及び主体部 2
(南東から)



一国山城跡遠景
(南から)



一国山城跡から
見た冠山城跡
(北東から)

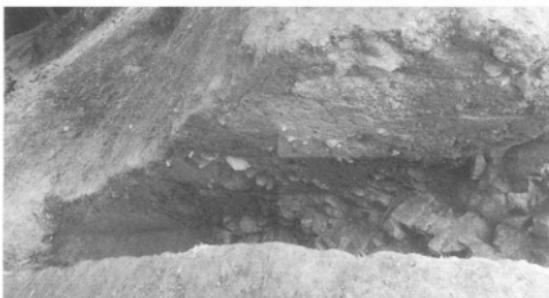


第4郭全景
(北西から)

図版 10



第1郭サブトレーンチ
(S-T) 土層断面
(南から)



第1郭サブトレーンチ 1
(Q-R) 土層断面
(西から)



第1郭サブトレーンチ 2 (Q-P) 土層断面
(東から)

図版11



P1 + P2 全景
(北から)



第1郭サブトレンチ3
(M-N) 土層断面
(南西から)



南北トレンチ
(E-F) 土層断面
(東から)

図版12



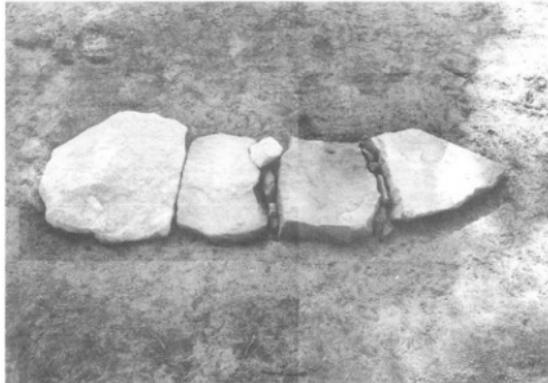
段状遺構A・B全景
(南から)



段状遺構B集石 4
(南から)



段状遺構A・B調査状況
(北から)



一国山1号墳石棺1
蓋石検出状況
(東から)



一国山1号墳石棺1半裁
(北東から)



一国山1号墳石棺1
鉄刀・玉類出土状況
(南から)

図版14



一国山1号墳石棺2
胡簾出土状況
(北から)



一国山1号墳石棺2
胡簾出土状況(拡大)
(東から)



一国山1号墳
周溝内遺物出土状況
(東から)

図版15



一国山1号墳掘上り状況
(北西から)



一国山2号墳掘上り状況
(南から)



一国山2号墳主体部
(西から)

図版16



一国山2号墳石室内敷石
(南西から)



一国山2号墳石室内
鉄釘出土状況
(南西から)



調査中の一国山4号墳
(南西から)



一国山3号墳石棺3蓋石検出状況
(北東から)



一国山3号墳石棺3掘上り状況
(北東から)

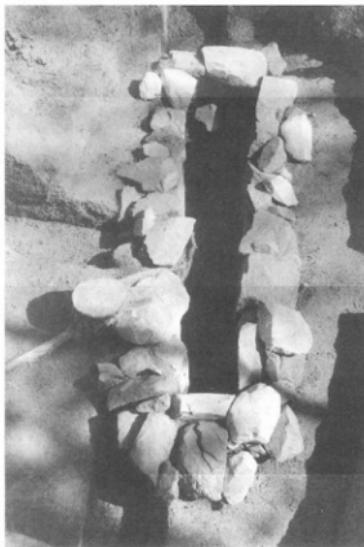
図版18



一国山4号墳石棺4検出状況
(南西から)



一国山4号墳石棺4蓋石検出状況
(南西から)



一国山4号墳石棺4掘上り状況
(南西から)



一国山4号墳石棺5・6検出状況
(北から)



一国山4号墳石棺5蓋石検出状況
(南西から)

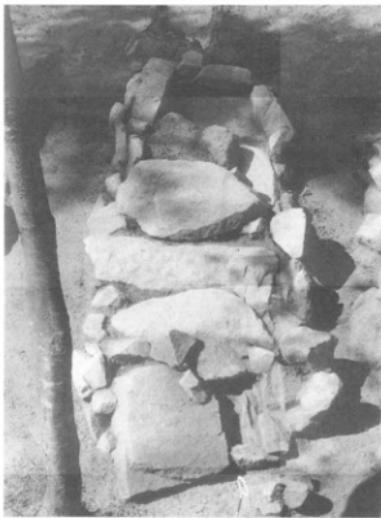


一国山4号墳石棺5搬上り状況
(南西から)

図版20



一国山 4号墳石棺 6掘上り状況
(南西から)



一国山 5号墳石棺 7蓋石検出状況
(北東から)



一国山 5号墳石棺 7掘上り状況
(北東から)